

**分科会 NO5 (学校図書館)**

**<学校図書館運営の実際(情報センター機能)>**

**<図書館 ICT パワーアップ>**

司会 氏名 坂下 満智子 (所属 飯田 OIDE 長姫高等学校)

記録 氏名 服部 伸也 (所属 千曲市立戸倉小学校)

9:30 開始

**1 発表の概要**

(1) 発表者氏名 上小澤 久美子 (かみこざわ くみこ) (所属 塩尻市立広陵中学校)

「中学校におけるデジとしょ信州」の活用 —塩尻市立丘中学校での実践—

**前任校での実践発表**

デジとしょ信州と出会い、学校子どもたちに導入できたという思いから本発表を行う。

利便性を生かし生徒の読書の可能性を広げることや紙の本と電子書籍どちらでも読書できる環境を整えることを目指している。

丘中学校では生徒全員の登録完了。全校体制でスムーズな導入を行った。

**成果** 読書をする生徒が増加 2023～2024で3から4倍の利用率となった。

紙、電子書籍の選択ができる。

**課題** 不便だと感じる児童が2倍に増えた。タブレットのルール破り

→困っている児童に個別指導を行う。正しいタブレットの使い方を指導。

デジとしょ信州の導入に際し生じた成果と課題をもとに今後の活用の仕方を探っている。

**質問**

塩尻至学館高校 畔上 友里 先生

Q デジとしょ信州導入に当たり市立図書館とのかかわりはあるか？

A 77市町村でお金を出して、県立がプラットフォームとなっている。

窓口は県立図書館となっている。県立に連絡をしたら、市町村に依頼してほしいと連絡があった。市町村から県にお願いする形となっている。

Q 全体に登録するときに苦労した点はあるか？

A アナログ・・・。学校で手続する前に生徒の登録番号、出席番号、塩尻市の番号を入れた名簿を作成する。名前とクラスを抜いた状態の物を市立図書館に依頼。それを担任にIDをわたし、生徒手帳に保管させている。GoogleIDが書かれたカードと同じ扱いしている。パスワードを変える作業が困難。

#### 安曇野市立 穂高西中 西澤 智美 先生

Q 校内担当進めているがなかなか進まない。隙間時間にタブレットが触れない。もともと間口が広がったか、導入で間口が広がったか？

A コロナをきっかけにタブレット利用のメリットに目をつけ、職員間で一致していた。タブレットを文房具の一部として使おうという指導があった。教育委員会の担当も指導してくれた。学校を上げて活用としようとする体制ができている。朝もタイピングをしようと言っていたが、それをデジとしよにしようとし掛け。タブレットのルールを守れない子もいるが、使っていこうという学校の姿勢がある。

Q 担任の先生の指導があるので、司書から声をかけづらい部分がある。隙間時間に活用できればともどかしい部分がある。また、デジタルでの書籍の貸し借りは便利だと感じる。

A 校内にデジとしよの紹介をした時の話。知っている先生は校内に2名。まずは見せてみた。その後も様々な先生に見せてみた。教務主任にも声掛けし、簡単にできるならいいね。校長教頭情報担当にも声掛けし、教務会にかける。そのおかげか、導入に際し組織的に導入する流れができた。

Q 教務会にまでもっていくことが難しい。その前の段階まで行くが・・・。めげずにやっていく。

#### 茅野市立 永明小 大西 恵美 先生

Q 生徒の登録は卒業、入学時の入れ替えはあるか？

A ある。市立図書館に連絡しおこなっていただく。

#### 諏訪市立諏訪中 宮坂 千鶴 先生

Q 図書館自体の利用の状況はどんな変化があったか？それを踏まえて新たな企画をしているか？

A アンケートを比べての増加の数である。紙媒体の読書が減ったことについては、質問内容に「紙を読まなくなった」という項目があるが、その内容を提示している。学校図書館の利用は数のカウントしてないが変わらないように感じる。コロナの休校もあり、データの比較が難しい。すごく本を読む子はデジとしよもたくさん使う傾向がある。デジタルは古い図書が多いがそれも読む。

県立図書館からの補足

丘中が一括登録初めての学校であった。長くつかってもらう場合は公共図書館の ID を利用した方がよい。調べ学習に使えるようなパッケージも導入したい。子どもたちがどのような本を読みたいかを県に連絡してほしい。

10時5分終了

(2) 発表者氏名 吉田 綾 (よしだ あや) (長野西高等学校 学校司書)

「高等学校における図書館サービスへの ICT 導入状況と研修の試み」

現在の高校生をとりまく情報環境と情報行動をとらえ、学校図書館で提供したいサービスや、実際に取り組んできた取り組みを紹介した。全県アンケートをもとに見えてきた状況をとらえ、課題を設定し様々な活動に取り組んでいる。アンケートの結果は多岐に渡り収集が難しい様子がある。ICT 導入の統一的な活用に向け、まず有志 (TEAMS) で取り組み、連携を取りながらより良い ICT 活用を漸進させていきたいという発表内容であった。

#### 質問

上田高校 大山 恵美 先生

Q 私立高校と公立高校で Google 機能を使ってチームスを使おうとすると困る。

A これから研究が必要。まずは有志で運営し今後に生かす。

須坂市立 東中 坪井 巧子 先生

Q 文化祭の時に作った動画がキャンバ使用。キャンバを教員が個人的に深める機会がない。高校ではキャンバをどのように使っているか？どのような活用の可能性があるか？

A 学校内でどんどん使っていこうとしている先生が広報した。その先生が自分のクラスでどんどん使い、そのクラスの生徒が司書に作ったポスターを見せたことをきっかけに便利さに気づいた。そこからチラシやプリントづくりに活用した。参考文献に活用の参考文献を載せたので利用してほしい。

県立図書館 職員

Q 高校でキノデンの活用はどうか？

A 生徒一人一人の活用は難しい。県立図書館への利用申請書が難しい。

Q 県立図書館の方にも課題がある。

10時40分終了

休憩

10時50分開始

(3) 発表者氏名 下牧 寛幸 (しもまき ひろゆき) (石川県 野々市市立布水中学校)

「個別最適な学びと共働的な学びにつながる学習情報指導」

情報活用の課題として、「情報の収集、整理・分析でつまづく児童が多い。」「情報の選択が難しい。」ということがある。「図書・WEBを正しく使う知識が乏しい。」ということも原因として考えられる。情報の活用の経験を積み重ねることで解消していきけるのではないかという仮説をもとに、多教科における実践事例の発表を行った。実践からは図書を活用してほしいところでもあったがWEBの利用が多かったこと、「情報を削る」作業の困難さ、引用、要約の違いがなんとなくしか分かっていないので具体説明をしたこと等を示し、個別最適な学びと、協働的な学びにつなげる情報学習の事例を紹介した。

質問

長野西高校 吉田 綾 先生

Q 新聞学習で素材となる新聞を人数分確保するにはどうするか？

A 3社分確保しているが、年明けくらいから確保していた

上越市立 黒田小 高波 英里 先生

Q 引用する際にコピーで安易に張り付けてしまうことがあるが、中学校ではどのような様子であるか？

A 出典を書くようにすることは事細かに指導していただいているが、なかなか難しい部分もある。

安曇野市立 穂高西中 西澤 智美 先生

Q 長野県ではデジとしょ信州が浸透しているかが気になる。石川県での探究場面でのデジタル図書の活用はあるか？

A 活用できるようになっているが、生徒個人で使えるようにはなっていない。デジタルを読書と認めるのかという議論はある。どうしても紙に触れてもらいたい、管理の問題、図書館に来てほしいなどの思いもあり、進んでいない。いずれは入るだろう。

茅野市立 永明小 大西 恵美 先生

Q 総合の授業は先生が行ったか？

A 新聞を活用したものは自分が行ったもの。別の物はほかの先生がやったこと。

Q ほかの先生の授業の司書教諭として関わることはあるか？

A ない。パイプ役のようになることはある。

11時20分終了 時間が余ったので意見交換を行う。12:00終了